

松本地域の取組 ～Made in 信州まつもと～ つながる食と農-美しいふるさとへ

【めざす将来の姿】

- ◇ 「Made in 信州まつもと」の農畜産物が広く信頼を持って受け入れられ、信州まつもとは消費者からマイファーム（自身の農場）として「選ばれる産地」となっています。
 - ◇ ベストミックス（地域資源の最適な組合せ）による「持続的な農業・農村」が展開されています。
 - ◇ 「Made in 信州まつもと」のもと、食と農がつながり、美しいふるさとへと連なっています。
- ※松本地域（松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村）の総称として「信州まつもと」を使用

重点戦略ごとの取組事項

重点戦略 1：ベストミックスによる持続的な農業生産体制の構築

【達成指標】（※は H28 年度実績見込み及び今後の方針を踏まえ、H29 年度目標を上回る計画値を設定）

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
40 歳未満の新規就農者数（単年度）	30 人	40 人	40 人
農地利用集積率	40%	56%	56%
集落営農組織数	52 組織	※ 62 組織	60 組織

- 多様な就農希望者の円滑な就農を図るため、松本地区新規就農促進連絡会（以下「連絡会」という。）を核に関係機関・団体の支援策を効果的に活用した支援の実施
 - ・ 農業次世代人材投資事業（開始型）の受給者を対象として課題解決支援活動を実施（7人）
 - ・ 関係機関・団体で農地、施設、住居等の情報を共有するため連絡会を2回開催するとともに、里親及び研修生の研修会を各1回開催し就農希望者の円滑な就農を支援
 - ・ 里親研修中に里親農家及び研修生を月1回定期巡回し経営計画の実現を支援
- 担い手経営体への農地利用集積を進めるため、人・農地プラン作成・実行への支援とともに水田の区画整理を実施
 - ・ 地域の合意形成により、集落や区域の方向性が示された人・農地プラン（42プラン）となるよう市村・JA等の取組みを支援
 - ・ 県営ほ場整備事業により安曇野市烏川地域24haの水田区画整理を実施
- 農地中間管理事業等の活用により担い手への農地の利用集積・集約化の支援
 - ④人・農地プランを範囲として、重点推進地区を中心に関係機関・団体と連携して農地の利用集積を支援（8か所）
- 担い手経営体、高齢農業者、地域住民等のそれぞれの持ち味を活かした営農の仕組み作りを進めるため、地域農業リーダーを育成するとともに農用地利用改善団体等の活動を支援
 - ・ 認定農業者の育成や集落営農の組織化及び農業経営の法人化推進など、地域営農の仕組み作りを支援（2組織）
- 農産加工施設の安定経営を目指す女性農業者の活動を支援
 - ・ 農産加工に取り組む女性農業者に対して学習会の開催（1回）等を支援

松本・Matsumoto

重点戦略2：おいしい農畜産物の産地づくり

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
果樹・野菜品評会上位入賞者数（単年度）	3人	4人	4人
畑地かんがい施設の更新面積	1,031ha	1,260ha	1,260ha
遊休農地解消面積（単年度）	97ha	50ha	50ha
六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	16件	16件

- 「おいしい信州ふード（風土）」の高品質化を図るため、技術講習会を開催するとともに原産地呼称管理制度への取組を支援
 - ④ 3億円の夏秋いちご産地づくりのための技術改善、経営向上並びに新規参入する担い手（5名）への支援を実施
 - ・果樹・野菜などの主要品目を中心に所得向上を図るため、栽培技術講習会を30回開催
- 低コスト化・省力化を進めるため、りんご新わい化栽培や省力機械・施設の導入を支援
 - ・産地パワーアップ事業等を活用して、収益力強化を図るための施設整備・農業機械等の導入を支援（3か所）
 - ・果樹経営支援対策事業等を活用し、優良品種及びりんご新わい化栽培への改植等（りんご15ha、ぶどう2ha）を推進
 - ④ 「リンゴ長果25（シナノリップ）」への品種更新を推進（1ha）
- 高品質野菜の生産を図るため、レタス根腐病等の連作障害対策を支援
 - ・レタス根腐病の発生状況を把握し、速やかな対策を講じるために現地調査を3回実施
- 農産物の高品質化、生産の効率化を図るため、畑地かんがい施設や用排水路など農業生産基盤の計画的な維持・更新を推進
 - ・県営畑地帯総合土地改良事業、県営かんがい排水事業等により老朽化した農業用施設632haの更新整備を推進
- 「おいしい信州ふード（風土）」などの導入を図るため、遊休農地の活用を支援
 - ④ 荒廃農地等利活用促進交付金等の活用により、荒廃農地の再生（50ha）を進めるとともに、地域特産物の生産拡大を支援
- 6次産業化を進めるため、農業者と地域の食品産業等他産業との情報交換の場を設置し連携活動を支援
 - ・6次産業化を志向する農業者等の総合化事業計画の策定及び実現に向けた支援（相談会1回）を実施するとともに、認定期間終了者に対するフォローアップ支援（6件）

重点戦略3：環境に配慮した農業、安全・安心な農業の推進

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
信州の環境にやさしい農産物認証取組面積	399ha	560ha	560ha
環境保全型農業直接支援対策対象面積	0ha	100ha	100ha
GAP取組団体数割合	20%	48%	48%

- 地域全体で環境負荷の軽減を図るため、信州の環境にやさしい農産物認証、環境保全型農業直接支援対策及びエコファーマーへの取組を支援
 - ・信州の環境にやさしい農産物認証の取得やエコファーマーの再認定を推進するため、要請のある直売所等を中心に集団取得を支援
 - ・信州の環境にやさしい農産物認証への取組みを拡大するため、農家が取組める技術の実証



ほ場を1箇所設置

- 衛生管理を始めとしたリスク管理を推進するため、より高いレベルのGAPへの取組を支援
 - ・農業生産現場において持続的な農業生産や農産物の安全確保のため、GAPの取得を目指す団体の取組みを支援（2団体）
- 安全・安心な畜産物の提供を図るため、家畜防疫体制を強化
 - ・家畜の飼養衛生管理及び口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ等家畜伝染病の発生予防とまん延防止対策を徹底するため、農場153戸を巡回するとともに防疫演習を1回・研修会を2回開催
- 健康な土づくりを進めるため、耕畜連携を推進
 - ・良質堆肥の流通を推進するため、広域堆肥センターに対し巡回相談会を3回開催
 - ・耕畜連携を進めるため、耕種農家向けに土づくりの講習会を4回開催

重点戦略4：「おいしい信州ふード（風土）」等の共有・発信

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
協議会によるPR活動数（単年度）	0回	2回	2回
サイン利用農業経営体数	0経営体	600経営体	600経営体
「信州まつもと」産農畜産物新規取引件数	0件	5件	5件

- 地域一体となった農畜産物の情報発信を進めるため、関係機関・団体等で構成される「おいしい信州ふード（風土）」松本地域活動協議会（以下「協議会」という。）の設置、「Made in 信州まつもと」のサインの制定等によるPR活動を実施
 - ・生産者と加工業者や販売事業者の連携を誘導し、地消地産に向けた新たな流通・マーケットの創造を支援（交流会等1回）
 - ・おいしい信州ふード商品等の認知度向上のためのフェアを2回開催
 - 消費者に環境農業をよく理解してもらうため、県ホームページ等の活用により環境農業に係る情報を発信
 - ・信州の環境にやさしい農産物認証やエコファーマー及び環境保全型直接支払制度の認知度向上のため、松本管内の取組事例等を（6回）ホームページやブログで紹介
 - 多様な消費者ニーズに対応した生産、販売を進めるため、マーケティング手法習得研修会等の開催
 - ・経済動向や消費者、実需者のニーズを的確に把握し、生産に結び付けられるよう研修会等を1回開催
 - 「信州まつもと」産農畜産物の活用を進めるため、観光業、商工業等他産業との情報交換の場の設置を支援
 - ・商工業者との情報交換を図るため商談会等（2回）マッチングの機会や情報提供等を実施
 - ワインの販売促進による産地活性化を図るため、信州ワインバレー構想と連携した情報の発信
 - ・信州ワインバレー構想に向けて関係機関と連携し、新規栽培者の技術・経営支援を2地区で実施
- ⑧ NAGANO WINE 栽培情報プラットホーム構築事業と連携した情報共有の場の設定

重点戦略5：食育・地産地消の推進

【達成指標】（※は H28 年度実績見込み及び今後の方針を踏まえ、H29 年度目標を上回る計画値を設定）

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
学校給食における県産農畜産物利用率	41%	※51%	50%
食育ボランティア数	1,549 人	1,700 人	1,700 人
食と農のセミナー実施団体数	27 団体	28 団体	28 団体

- 学校、保育所等における食育及び農業体験を推進
 - ・食や農に関する意識向上のため、農村女性ネットワーク会員等による小学生が収穫した大豆の豆腐作り体験（2回）を支援
- 子どもから大人まで幅広く地域における食育を更に推進するため、食育ボランティア活動等を支援
 - ・農村生活マイスター、農村女性ネットワーク会員等による農産加工体験・料理講習会（10回）を支援
- 食文化の継承を図るため、食と農のセミナー実施団体の活動を支援
 - ・消費者が食や農に関する理解を深めるためのセミナーを（4回）開催
- 地産地消を進めるため、直売所、地元市場等と連携し、消費者、農業者が本来の食と農の姿について共有できる場の設置を支援
 - ・農産物直売所等の売り上げ向上のために講習会等を（3回）開催

重点戦略6：農村機能の維持・中山間地域の活性化

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H29 計画	H29 目標年
中山間地域における施設園芸への取組数	8 件	15 件	15 件
多面的機能支払事業取組面積	1,491ha	9,850ha	9,850ha
都市農村交流人口	53,896 人	61,000 人	61,000 人

- 中山間地域における安定した農業経営の定着を図るため、施設園芸や匠の技による農業への取組を支援
 - ・気候、立地条件に適したアスパラガスなど導入作物の選定及び施設整備の支援並びに栽培技術の指導
 - ⑧中山間地の特色を活かした多様な取組みを、中山間地農業ルネッサンス事業を通じて支援（7箇所）
- 農業・農村の多面的機能を維持するための、多面的機能支払事業の活用による継続的な農業生産活動を支援
 - ・多面的機能支払交付金により、農業者が共同して取組む地域活動や、地域資源（農地・水路・農道等）の質的向上に資する活動 9,850ha を支援
- 中山間地域等農業直接支払事業を活用して中山間地域のもつ多面的機能維持活動を支援
 - ・116 集落での農用地の維持管理のため農業生産活動等の取組みに対し市村と連携して支援
- 野生鳥獣被害対策チームによる野生鳥獣対策を支援
 - ・野生鳥獣による農作物への被害防止のため、侵入防止柵の設置支援を 3 地区で実施
- 再生可能エネルギーの導入を促進するため、小水力発電など農業水利施設等の活用を支援
 - ・地域用水環境整備事業を活用し、小水力発電施設の整備 2 地区を支援
- 都市農村交流人口増を図るため、里山、田園等を活用したグリーン・ツーリズムを推進し、都市住民に向けて情報を発信
 - ・里山と農村が連携したグリーン・ツーリズムの推進を図るため、農家民宿等の開設を支援